本校卒業生２名が教育実習生として大活躍しました！！

昨年度に続き、卒業生２名を教育実習生として迎え入れることになりました。毎年、卒業生が教育実習生として学校に戻ってくることは、教育成果の大きな表れであると確信しています。どちらも総合学科２期生として、平成２０年３月に本校を卒業した生徒で、国語科の教員免許取得をめざしての実習となりました。

中村紗貴（東中学出身）さんは、梅花女子大学文化表現学部日本文化創造学科の４年生で、指導教員が草木先生、実習期間は６月１日～１４日までの２週間。名田唯史（西中学出身）君は、京都外国語大学外国語学部日本語学科の４年生で、指導教員が明楽先生、実習期間は６月１日から２１日までの３週間。

ふたりとも、本校先輩であること、生徒と年齢が近いこと、優しく穏やかな性格からか生徒たちから慕われ、授業やホームルーム、クラブ活動、体育祭などを通じ、教員としての経験をしっかりと積むことができていました。実習期間の終わりには、この間培った力を発揮するため、研究授業に挑戦してもらいました。ふたりとも、プロフェッショナルとは十分言い難いものでしたが、少しでも子どもたちに理解させようとする努力や、伝えようとする意欲については、先輩教員にとっても良い刺激になるものでした。ふたりのこれからの活躍を大いに期待します。

中村紗貴さんと名田唯史君からのメッセージを紹介します。

２週間という短い期間で、限られた授業回数でしたが、あっという間に終わってしまったように感じました。間に体育祭を挟んだこともあり、もっと長いかなぁと思っていましたが充実した２週間になりました。生徒の皆さんから、どう見えたかはわかりませんが、先輩として、教育実習生として見本になれたでしょうか？

この２週間、楽しいことばかりではありませんでしたが、未熟な私を受け入れてくださったこと、そして支えていただき先生方には大変お世話になりました。貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございます。　　中村 紗貴

３週間の実習を終えてまず思うのは、この実習がとても楽しくかけがえのないものであったということです。よく「長いようで短い」という言葉を耳にしますが、私にはとても短く感じ、まだまだ生徒たちと接していきたいと思いました。それは、生徒をはじめ周りの方々のサポートのおかげで、のびのびと色々なことを経験できたからだと思います。

授業以外にも生徒と接する時間は多く、その度に授業で見ることのできない彼らの一面を見ることができ、うれしかったです。教師の役割は単に教科書の内容を教えるだけではないと改めて実感することができました。私にとってこの実習での経験はとても貴く、忘れられないものです。この思いを忘れないように、これからも色々なことに挑戦していきたいと思います。３週間、本当にありがとうございました。

名田 唯史